

市政ニュース

豊岡市は景観法に基づき

「景観行政団体」になりました!

本市は、豊かな自然や城下町、温泉街など地域ごとに特色ある景観を有しています。その貴重な景観を保全し向上させるため、市は、県知事の同意を得て、6月1日「景観行政団体」になりました。

景観行政団体は、景観計画の策定以外に、景観重要建造物や景観重要樹木などの指定を行うことができます。また、景観計画に基づき景観行政事務を行います。

今後、市全域を景観計画区域とし、「豊岡市景観計画」の策定を進めます。

市民に最も近い市が景観行政を主体的に取り組むことで、地域に合った良好な景観形成の促進が図れます。

「出石町の「チクタク奥山」に続き、市内2例目」 「チクタク資母」スタート

「チクタク」は、市の支援を受けながら、地元関係者で構成する運営協議会が主体となって運行する地区の乗合タクシーです。

「チクタク資母」は、但東町赤花地域(奥赤区・赤花区・坂津区)から中山区までを結びます。

5月23日、但東町奥赤公民館で「チクタク資母」の出発式



▲出発式でのテープカット

が行われ、関係者の見守る中、記念すべき第1便が出発しました。地域の皆さんの生活を支える大切な公共交通通としての活躍が期待されます。

5月20日「豊岡市生きもの共生の日」

いのちの授業を展開!

5月20日は、「豊岡市生きもの共生の日」。放鳥したコウノトリから野外で43年ぶりにヒナが誕生した平成19年5月20日を長く記憶にとどめるとともに、「命」や「生きもの」について思いを巡らせる日として制定した市の記念日です。

今年のはじめの日、東日本大震災を受けて、市内の各小中学校で「いのちの授業」を展開しました。

三江小学校では、6年生が、市長のビデオメッセージを教



▲市長のビデオメッセージを教
材に、命について話し合いま
した。児童の意見を受けて、
担任教諭は「命を考えると
うことは、自分の生き方を考
えるということです。今日考
えたことを、ぜひ行動に移し
ほしい」と話しました。

「シルク温泉に次いで2基目」 「出石温泉館 乙女の湯」で木質ペレットボイラー稼働

バイオマスタウン構想を推進するため、市内の公共施設などにペレットボイラー、ペレットストーブの設置を進めています(平成22年度末現在、シルク温泉にペレットボイラー1基、小・中学校、公共施設にペレットストーブ132台設置)。

このたび「出石温泉館 乙女の湯」に木質ペレットボイラーシステムが完成し、6月

2日、点火式が行われました。今後は、木質ペレットボイラーを主ボイラーとして運転し、既存の灯油ボイラーは、バックアップ用ボイラーとして稼働します。

ペレットボイラーの導入により、灯油使用量が減少し、年間約240トン(ドラム缶約61万本に相当)の二酸化炭素の排出が削減される見込みです。

主な市政の動き

5月

16日 東京大学保全生態学研究室とコウノトリ野生復帰の取組みに寄与する研究活動協定締結

被災地支援隊出発(26日、6月9・16・23日)

震災災害救援ボランティアバス出発(23日)

20日 出石温泉「木屋町小路・三十三間広場」プロジェクト(社)日本都市計画学会計画設計賞受賞式

23日 「チャレンジャー2011」参加、初勝利

25日 「城崎温泉」木屋町小路・三十三間広場「プロジェクト」(社)日本都市計画学会計画設計賞受賞式

27日 市立コウノトリ文化館入館者300万人到達記念セレモニー

6月

1日 豊岡市が景観行政団体になる

3日 市議会開会(28日) N T T ドコモ緊急速報「エリアメール」運用開始

4日 2010「植村直己冒険賞」授賞式・記念講演会

大雨・洪水防災訓練

「見る・食べる・湿地の恵みを体感」 ラムサール条約湿地候補地エリアを歩く「ラムあるき」開催

ラムサール条約は、世界中の重要な湿地を評価し、保全する国際条約です。現在、世界で約1900カ所、国内では、北海道の釧路湿原をはじめ37カ所が登録されています。市では、国内候補地の一つ

グレイベント「ラムあるき」を開催しました。早朝から降り始めた強い雨にもかかわらず、大勢の方々に参加いただき、ハチゴロウの戸島湿地から田結漁港までの約7キロの道のりを歩きました。

に選ばれている「円山川下流域及び周辺水田」を、平成24年6月にルーマニアで開催されるCOP11（第11回ラムサール条約締約国会議）で登録すべく準備を進めています。5月22日、候補地エリアの魅力を再発見するウォーキン



▲田結湿地で豊かな自然を観察

今季初、野外での コウノトリのヒナ巣立ち

6月9日午前10時43分、ハチゴロウの戸島湿地（城崎町戸島）人工巣塔で、本年度野外で初のコウノトリのヒナの巣立ち（同湿地では4年連続）がありました。



▲巣立ちの瞬間（写真提供：井垣弘行さん）

入館200万人達成から約3年

コウノトリ文化館の入館者300万人到達！

5月27日、市立コウノトリ文化館の入館者が300万人に到達しました。

した。

和憲さんは今回で2回目の来館、幸子さんは初めてです。和憲さんは「300万人の1人

入館者は、神崎郡神河町の千葉和憲さん、幸子さん夫妻。記念セレモニーでは、中貝市長のあいさつの後、認定証の交付、テープカット、記念品の贈呈、記念撮影を行いました。

人を選ばれた幸運に驚きました。以前、中貝市長の講演を聞いて感動し、妻にも、ぜひ、コウノトリを見せたかった。秋篠宮ご夫妻が使用された放鳥箱でのテープカットも感動



▲秋篠宮ご夫妻が使用された放鳥箱の前で喜ぶ千葉さん

しました」と喜びもひとしおの様子でした。

中貝市長の徒然日記 ④

冒険、この人間的な営み

今年の植村直己冒険賞受賞者は栗秋正寿さん、過酷な冬のアラスカに挑む登山家です。中央アラスカ山脈を代表する3山のうち、マッキンリーは世界で4人目、フォレイカーは世界初、いずれも冬季単独登頂に成功しておられます。残るハンターへの挑戦は今も進行中です。でもあるサル学の権威、河合5度目の挑戦は83日間に及び、雅雄先生にお尋ねしました。そのうち53日間は、マイナス50度、風速50メートルという過酷な条件下、掘った雪洞の中でたった1人。ハーモニカを吹き俳句を詠んだりしながらじっと時を待つというすさまじいものでした。その強靱で柔らかな精神に圧倒されます。それにしても、冒険者たちは、人間とは思えないようなことをなぜしでかすのでしょうか。冒険家とは、1回限りの人生に悔いがないように、限られた命をとことん輝かせたいという思いが人並みはずれて強い人たちののだと、私は思っています。そのことをある女性職員に話しました。

職員：「私の反応は私にとって実に新鮮で驚くべきものでした。私は生きものが好きでいろんな生きものを見てきた。生きものはただただ一生懸命生きて、自分の子孫を残そうと必死だ。私も自分の子どもを産みたいと思っている。命を輝かせるために自ら命を危険にさらすなんて、信じられない」

そこで、冒険賞の選考委員でもあるサル学の権威、河合5度目の挑戦は83日間に及び、雅雄先生にお尋ねしました。そのうち53日間は、マイナス50度、風速50メートルという過酷な条件下、掘った雪洞の中でたった1人。ハーモニカを吹き俳句を詠んだりしながらじっと時を待つというすさまじいものでした。その強靱で柔らかな精神に圧倒されます。それにしても、冒険者たちは、人間とは思えないようなことをなぜしでかすのでしょうか。冒険家とは、1回限りの人生に悔いがないように、限られた命をとことん輝かせたいという思いが人並みはずれて強い人たちののだと、私は思っています。そのことをある女性職員に話しました。



「まず、生きて帰ってくる」と――栗秋さんの言葉です。